

令和3年度特定外来生物（キョン）防除対策検討委員会（第2回）

議事概要

1. 開催日時 令和4年2月17日（木）14:00～16:00

2. 開催形式 WEBによるオンライン会議

※原則としてオンラインでの傍聴としますが、大島支庁仮庁舎第二会議室にて定員（5名）を設定して傍聴を受け入れます。

3. 議事

- 1) 令和3年度の事業進捗について
- 2) 東京都キョン防除実施計画の改定について
- 3) 令和4年度の取組について

4. 出席者

■検討委員

織 朱實	上智大学大学院地球環境学研究科 教授（欠席）
加瀬 ちひろ	麻布大学獣医学部 講師
小池 伸介	東京農工大学大学院グローバルイノベーション研究院 教授
羽澄 俊裕	環境省認定 鳥獣保護管理プランナー
松林 尚志	東京農業大学農学部 教授（欠席）

■臨時委員

石井 信夫	東京女子大学 名誉教授
佐々木 洋平	一般社団法人大日本獺友会 代表理事会長
深澤 圭太	国立研究開発法人国立環境研究所 主任研究員（欠席）

■関係機関

中田 太	大島町産業課 課長
大原 昭仁	大島町産業課農業係 係長
轟田 奈津希	関東地方環境事務所伊豆諸島管理官事務所 国立公園管理官（欠席）

■東京都

島野 知幸	東京都総務局大島支庁土木課 課長
木村 信幸	東京都総務局大島支庁土木課大島公園事務所 課長代理
小池 侑生	東京都総務局大島支庁土木課大島公園事務所
中島 江利子	東京都総務局大島支庁土木課大島公園事務所 防除専門員

中屋 雄一郎 東京都総務局大島支庁産業課 課長

宍倉 克俊 東京都総務局大島支庁産業課 課長代理

加藤 あかり 東京都総務局大島支庁産業課 林務担当

(事務局)

佐藤 基以 東京都環境局自然環境部 森林再生担当課長

高倉 博史 東京都環境局自然環境部計画課 統括課長代理 (森林再生担当)

■事務局

一般財団法人自然環境研究センター

5. 議事内容

(1) 令和3年度の事業の進捗について

1) 令和3年度の事業報告と捕獲実績について

- ・ 2月から3月の捕獲頭数は昨年度と同程度になる見込みか。

→ (事務局) 今年度も同様の見込みである。

2) 生息状況モニタリングの結果について

- ・ 糞粒密度は横ばいか所によってはやや減と読み取れ、年間5000頭捕獲しているが、まだ捕獲圧が足りないということだろう。個体数を減らすには、メスを捕獲しなければならない、大きな課題である。将来的に根絶を目指すのであれば、かなり努力して減らさなければならないので、効果が上がるように進めてほしい。防除南北や単独銃器、チームによる銃器捕獲の役割分担を考えて進めてほしい。

→ (東京都) メスの捕獲効率を上げることの必要性を認識している。また、低密度から根絶に向けての役割分担で重要なのは銃器による捕獲である。現状でよしとせず、減少に向けて対策を強化していきたい。

- ・ 火口域の地点で糞粒密度が増加傾向にあるが、これはキョンの増加ポテンシャルと考えて良いか。

→ (事務局) 捕獲が実施されていないので、そう捉えることはできるが、低木林の面積が限られているので、ある程度のところで収容力に達するとも考えられる。

→ 急激に増加する可能性も秘めている。今後の動向に注目したい。捕獲の手を抜くところなるという貴重なデータであるので、参考にすべき。

- ・ 市街地(岡田)は防除市街地の実施範囲に含まれるのか。糞粒密度が高めなのは、キョンが多いことを反映しているのか、それとも捕獲圧が不十分なのか。

→ (事務局) 防除市街地の事業範囲外ではあるが、周辺は北部防除事業で張り網等による捕獲が行われている。捕獲圧の掛け方が現状では弱い可能性はある。

→防除市街地の対象範囲に含まれている地域と、含まれていない地域との違いは何か。
→（東京都）市街地が密集しているため土地承諾の範囲外である。分断柵を設置したうえで、箱わなの設置など進めていきたい。

3) 植生モニタリングの結果について

- ・ キョンの植生への影響が相当あることが分かってきた。キオンは根絶しなければならない。
- ・ 10m コドラートの出現種数が台風の影響で増加し、その後減少したとあるが、どのような意味か。
→（事務局）台風の攪乱により明るくなり、先駆性の種が出現したが、翌年に林冠が少し暗くなって枯死したのではないかと考えている。

（2）東京都キオン防除実施計画の改定について

- ・ 「次期計画期間」とは、第4期計画期間のことか。
→（東京都）そうである。
- ・ 事業の評価及び計画の見直しの方法について、令和6年度に評価と課題の整理、令和7年度にかけて見直すスケジュールでよいか。
→（東京都）令和6年度と7年度の最後の2カ年度で次期計画に向けた見直しをする計画である。
- ・ 効果的な捕獲手法を検討するとあるが、これを大学や研究機関が担うということか。事業として実施する予定はあるか。
→（東京都）すべてを依頼するわけではないが、大学や研究機関とは協力、連携を進めていきたい。事業で行うことを検討している。
→事業として実施する必要があるだろう。実施体制の図には、防除事業者とも同様の連携関係がある旨、記載したほうがよいかもかもしれない。
- ・ 火口域で植生への影響が大きいことを踏まえると、早めに分断柵を設置し、囲い込む必要がある。第3期計画期間中に分断柵の設置が終わり、捕獲を開始できる見込みはあるか。
→（東京都）明確な時期は提示できない。火口域の周囲の分断柵の設置は進んでいる。市街地や急傾斜地と森林域との間の分断柵は、道路や生活圏などもあるので、うまく調整しながら分断を進め、キョンの捕獲に繋げていきたい。
→影響が出ているので、テンポよく進めてほしい。税金を使っているので、元の木阿弥にならないようにしてほしい。
- ・ 第3期計画は検討委員会として承認ということによいか。
→異議なし、承認。

(3) 令和4年度の取組について

- ・ 市街地で効果的な捕獲方法を開発するための試験はどの事業で実施するものか。
 - (東京都) 特定外来生物(キョン)防除対策運営管理調査委託に含まれる。
 - 個体識別できる飼育下の個体を使った試験も視野に入れて取り組んでいくべき。
 - (東京都) 捕獲の効率化に向け、トライアンドエラーしながら検討していく。